

# Oracle Exadata Cloud@Customerに関する 10の質問とその回答

---

よくある質問 (FAQ)

2022年6月、バージョン1.0

Copyright © 2022, Oracle and/or its affiliates

規制遵守からデータ・レジデンシーの問題、他のオンプレミス・アプリケーションとの統合、超高速応答時間の必要性、リスク軽減までのすべてが、パブリック・クラウドではなくデータセンター内にデータを保管するための正当な根拠になります。同時に、現在のビジネス・リーダーはクラウドのメリットをよく理解しています。Cloud@Customer上のOracle Exadata Database ServiceとExadata Cloud@Customer上のOracle Autonomous Databaseサービスは、お客様のデータセンター内でクラウドのあらゆるメリットを提供します。

## 上位10の質問とその回答は次のとおりです。

### 1. Oracle Exadata Cloud@Customerとは何ですか。

Exadataは、スケールアウト機能、データベース用に最適化されたコンピューティング、ネットワーク、ストレージを備えた理想的なプラットフォームです。このスケールアウト・アーキテクチャでは、お客様がストレージとコンピューティングを追加すると、コンピューティングCPUとネットワークも自動的に追加され、直線的なスケーラビリティが実現されます。Exadataにはデータベース認識型のシステム・ソフトウェアが組み込まれており、OLTP、アナリティクス、データベース統合を大幅に改善する独自のアルゴリズムを搭載しています。Exadataテクノロジーは、オンプレミス、お客様データセンター（Cloud@Customerを使用）、およびパブリック・クラウドで使用可能であり、柔軟なデプロイ・オプションが提供されています。

### 2. オンプレミスExadata、Exadata Cloud@Customer、Exadata Cloud Infrastructureにはどのような違いがありますか。

Exadata Cloud@Customerは、オンプレミスExadataおよびExadata Cloud Infrastructureと同じエンジニアド・データベース・システム上に構築されています。自社データセンターのファイアウォール内でデータを保護したまま、コード変更やサービス・レベルの低下なしで、ミッションクリティカルなワークロードをクラウドに移行できます。Exadata Cloud@Customerでは、オンプレミスとクラウドの間でアーキテクチャ上の違いがないため、ユーザーはビジネス・ニーズに最も適した場所にシームレスにワークロードを移行できます。

### 3. どのようにして、オンプレミスExadataまたはExadata Cloud@Customerのどちらかのデプロイを選ばいいのでしょうか。

通常、Exadata Cloud@CustomerのユースケースはオンプレミスExadataのユースケースと同じで、データウェアハウス/アナリティクス、ミッションクリティカルなトランザクション処理アプリケーション、データベース統合などが含まれます。組織がCloud@Customerのデプロイを選ぶ理由は、通常、セキュリティ、規制、アプリケーションのネットワーク待機時間の要件を満たすためにデータ管理を維持したまま、クラウドの利点を活用するためです。

コスト効率に優れたサブスクリプションベースのソフトウェア・ライセンス・モデルを選択できます。

- **“ライセンス込み料金”**には、Oracle Database Enterprise Edition（Oracle EE）とすべてのデータベース・オプションおよび管理パックが含まれます。
  - 既存のライセンスがない場合や、新規ワークロードでライセンス未所有の追加テクノロジーが必要になった場合に最適です。

- “Bring Your Own License”（BYOL）では、お客様の既存ライセンスを使用してサブスクリプション・コストを下げることができます。
  - 既存ワークロードを同じ使用法でクラウドに移行する場合に最適です。

#### 4. Exadata Cloud@Customerからどのような価値が得られますか。

[Futurum](#)によると、「新しいExadata X9Mは、あらゆるOracleデータベース・ワークロードに対して、クラウド・オンプレミス・サーバーであろうと通常サーバーであろうと、オンプレミスで実行されるどのサーバーよりも高いパフォーマンスと幅広い機能を提供し、非常に高い価値をお客様にもたらしめます」

[Wikibon](#)のアナリストはこう結論付けています。「AWS Outpostsは、この調査で述べたいずれの問題も解決しないばかりか、Exadata Cloud@Customer X9Mよりも総コストが高く、パフォーマンスは大幅に下回り、比べものにはなりません。Exadata Cloud@Customer X9Mのパフォーマンスは、これまでの流れを一変させます」

#### 5. そのほか、Exadata Cloud@Customerを選ぶ動機となる考慮事項はありますか。

クラウドの自動化、運用、経済性が挙げられます。インフラストラクチャのデプロイと管理という手間をかけることなく、わずか30分でデータベースをデプロイできます。必要に応じてOCPUを増減でき、時間単位の従量課金サブスクリプション・モデルでコストを低く抑えられます。また、Oracle Cloud Infrastructure（OCI）では、きめ細かな組込みセキュリティ制御に加えて、カスタマイズした分離ポリシーと運用ポリシーを指定できます。

**パブリック・クラウドには移行できないワークロード。** Exadata Cloud@Customerは、お客様データセンターのファイアウォール内にクラウド体験をもたらします。まったく同じ運用モデルと財務モデルを使用して、シームレスにパブリック・クラウドと相互運用できます。

**データ・セキュリティ。** ハードウェア・インフラストラクチャ、ネットワーク、Exadataプラットフォーム、Oracle Databaseのすべてに包括的なセキュリティ対策が組み込まれています。セキュリティ機能により、お客様のデータ・アクセスとOracle Cloud Operationsとが分離されるため、Exadata Cloud@Customerに出入りするデータ、システム上に存在するデータ、システムへのアクセス、およびシステムで実行されるコードが保護されます。さらに、[Oracle Operator Access Control](#)では、Oracle CloudオペレーターがどのExadata Cloud@Customerリソースにアクセスできるか、リモート管理セッションでどのような操作を実行できるかを組織が全面的に管理できます。

**パブリック・クラウドへの道。** Exadata Cloud@Customerのアーキテクチャは、オンプレミスExadataおよびオラクルのパブリック・クラウド・サービスとまったく同じなので、お客様の準備ができたときにいつでも簡単に、低リスクでクラウドへ移行でき、停止時間も必要ありません。その後でクラウドが自社には不向きだと判断した場合は、同様に簡単に元に戻すことができます。



EOPYYYはExadata Cloud@Customerによりセキュリティとパフォーマンスを強化しました

## 6. Autonomous Database on Exadata Cloud@Customerとは何ですか。

お客様のデータセンター内に配置されるフル・マネージドの専用データベース・クラウド・サービスです。オンプレミス・デプロイ用のExadata Cloud@Customerで実行される専用インフラストラクチャで、Autonomous Databaseを使用できます。お客様のデータセンター内で稼働すること以外はすべて、Oracle Cloud Infrastructureで提供されるものと同じAutonomous Database専用クラウド・サービスです。

## 7. Exadata Database ServiceとAutonomous Database Service on Exadata Cloud@Customerを組み合わせてデプロイすることはできますか。

はい、できます。Exadata Cloud@Customerは複数VMの使用をサポートするので、分離された可用性の高いAutonomous Databaseインスタンスを作成して、一連の仮想マシン上で実行できます。これらの仮想マシンは、Exadata Database ServiceのVMクラスターと同時にデプロイできます。

## 8. 既存のExadata Cloud@CustomerでマルチVMのAutonomous Databaseをサポートする理由を教えてください。

マルチVMのサポートにより、Oracle Autonomous Databaseの採用が容易で低コストになり、クラウドネイティブでミッションクリティカルなデータベースもデプロイしやすくなります。同じCloud@Customer InfrastructureでExadata Database Serviceと同時にフル・マネージドのAutonomous Databaseサービスを実行できるため、より容易に既存ワークロードを活用し、新規ワークロードを開発し、統合効率を高めることができます。

「重要な医療サービスのワークロードをコロケーション施設から、Oracle Exadata Cloud@Customerを使用する自社データセンターに移行しました。デプロイは簡単で、パフォーマンスが40%上がっただけでなく、可用性とセキュリティも向上しました。さらにクラウドの自動化により運用が簡略化されたので、より主体的かつ生産的に複雑なアクティビティの計画と遂行に取り組めるようになりました」

National Organization for the Provision of Health Services,  
IT担当役員、  
Cristina Georgakopoulou氏

## 9. Exadata Cloud@Customer上のOracleデータベースには誰がパッチを適用するのですか。

Oracle Autonomous Databaseによって、Exadata インフラストラクチャ（Dom0およびDomU）とユーザー・データベースの両方にパッチが適用されます。ユーザーは、デフォルトのパッチ適用スケジュールを任意のスケジュールでオーバーライドできます。

## 10. Autonomous Database on Exadata Cloud@CustomerがサポートされるExadataインフラストラクチャのラック・タイプはどれですか。

サポートされるのは、X7-2、X8-2、X8M-2、X9-2M Gen 2のExadata Cloud@Customer Infrastructureのクォーター・ラック、ハーフ・ラック、フル・ラックです。

### 要点

Exadata Cloud@Customerは、クラウドのシンプルさとオンプレミス・デプロイのセキュリティおよび制御を両立させる製品で、オラクルとの共同管理またはAutonomous Databaseを選択でき、どちらもサブスクリプション・モデルで提供されます。クラウドへの完全移行が選択肢にない場合、オラクルがお客様にクラウドをお届けします。

---

### Connect with us

+1.800.ORACLE1までご連絡いただくか、[oracle.com](https://www.oracle.com)をご覧ください。北米以外の地域では、[oracle.com/contact](https://www.oracle.com/contact)で最寄りの営業所をご確認いただけます。

 [blogs.oracle.com](https://blogs.oracle.com)

 [facebook.com/oracle](https://facebook.com/oracle)

 [twitter.com/oracle](https://twitter.com/oracle)

Copyright © 2022, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved. 本文書は情報提供のみを目的として提供されており、ここに記載されている内容は予告なく変更されることがあります。本文書は、その内容に誤りがないことを保証するものではなく、また、口頭による明示的保証や法律による黙示的保証を含め、商品性ないし特定目的の適合性に関する黙示的保証および条件などいかなる保証および条件も提供するものではありません。オラクルは本文書に関するいかなる法的責任も明確に否認し、本文書によって直接的または間接的に確立される契約義務はないものとします。本文書はオラクルの書面による許可を前もって得ることなく、いかなる目的のためにも、電子または印刷を含むいかなる形式や手段によっても再作成または送信することはできません。

本デバイス、連邦通信委員会のルールに基づいた認可を未取得です。認可を受けるまでは、このデバイスの販売またはリースを提案することも、このデバイスを販売またはリースすることもありません。

OracleおよびJavaはOracleおよびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称はそれぞれの会社の商標です。

IntelおよびIntel XeonはIntel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARC商標はライセンスに基づいて使用されるSPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMDロゴおよびAMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devicesの商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。0120

免責事項：データ・シートにこの免責事項の記載が必要かどうか分からない場合は、収益認識方針を参照してください。本書の内容と免責事項の要件についてさらに質問がある場合は、[REVREC\\_US@oracle.com](mailto:REVREC_US@oracle.com)宛てに電子メールでご連絡ください。